

## ■小児科研修プログラム

### 1) 一般目標

日常診療で頻繁に遭遇する小児疾患に適切に対応ができるように、入院患者の受け持ちと外来診療によって基本的な臨床能力(態度、技能、知識)を身に付ける

### 2) 行動目標

1. 小児ことに乳幼児に不安を与えないで接することができる。
2. 親(保護者)及び患児から必要な病歴を聴取できる。
3. 視診により、顔貌と栄養状態を判断し、主要症状の有無を知ることができる。
4. 乳幼児の口腔、咽頭の診察ができる。
5. 発熱した患児の診察を行い、診断治療ができる。
6. 下痢の患児を診察し、便の性状を述べることができる。
7. 嘔吐や腹痛のある患児を診察し、腹部所見を述べることができる。
8. 痙攣や意識障害のある患児を診察し、髄膜刺激症状を調べることができる。
9. 熱性けいれんに対して適切な処置ができる。
10. 脱水症の有無と程度を判断できる。
11. 小児の年齢区別の薬用量を理解し、薬剤を処方できる。
12. 乳幼児の薬剤の服用、使用について看護師、親(保護者)に指導することができる。
13. 年齢、疾患に応じて補液の種類、量を定めることができる。
14. 新生児の日常的ケアができる(保育環境、水分量の計算、栄養管理、体重測定、バイタルサイン、新生児黄疸など)。
15. 小児科専門医に適切に紹介できる。

### 3) 研修方法

1. 外来診療：指導医の下で、主として新患の診療にあたり、以後の診断・治療計画を立案し、治療や処置を実施する。
2. 入院診療：数名の入院患者を受け持ち、入院時の診療計画や日々の患児の病状の変化を把握し、診療録に記載する。また、必要時に指導医のもとで小児科入院患者の採血や点滴などの処置を行う。診療後、入院診療録をもとに適宜指導医と振り返り・検討を行う。受け持ち患児退院後は退院時サマリーを作成し、指導医とともに振り返りを行う。
3. 院内の乳幼児健診や予防接種に指導医とともに参加する。
4. 新規の受け持ち患者について、カンファレンス時にプレゼンテーションを行う。
5. 教育的価値の高い症例や臨床研究は担当した研修医が学会発表を行うとともに、論文を作成し投稿する。

### 4) 評価

1. EPOC2で評価する。
2. 当科独自の評価

## 小児科 週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	カンファ(入院患者の経過報告, 新規入院患者の報告) 回診/新生児診察				
	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修	外来研修
午後			ワクチン接種研修		乳幼児検診
	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診	夕回診